## 一般演題 8 O8-01
## 大学病院における高気圧酸素治療の自由診療導入後の実践と評価

◯亀山沙矢香[1]　宮城京子[1]　饒平名かおり[1]
眞榮城智子[1]　砂川昌秀[2]　上江洲安之[2]　吉田拓将[2]
前原博樹[3]　梅村武寛[3,4]
1）琉球大学病院　看護部
2）琉球大学病院　医療技術部臨床工学部門
3）琉球大学病院　高気圧治療部
4）琉球大学病院　救急部

**【背景と目的】**

当院では 1972 年より高気圧酸素治療（HBO）を保険適用範囲で提供してきた。2020 年からプロバスケットボールチームのチームドクターとしてスポーツ外傷への HBO 臨床応用を開始し，選手の早期回復を目指してきた。2024 年より，学生やアマチュア選手にも自由診療として HBO を導入し，早期回復を支援している。本研究では，自由診療導入後の運用状況と臨床的効果を看護師の視点から報告する。

**【運用過程】**

1. 自由診療のパンフレットを作成し，近隣医療機関へ配布
2. 看護師が HBO 装置内での安全管理を徹底

**【対象と方法】**

期間：2024 年 11 月～ 12 月。

対象：自由診療を受けた 13 例。

調査項目：競技別，受傷内容，有害事象に分類。

フェイススケール（FS）：治療前後の体調を含めた疼痛を 0 ～ 5 点で評価。患者の具体的な感想も収集。

**【結果】**

| カテゴリ | 項目 | 症例数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 競技別内訳 | バスケットボール | 6 | |
| | ゴルフ | 4 | |
| | 野球 | 2 | |
| | ウエイトリフティング | 1 | |
| 受傷内容 | 関節・靱帯損傷 | 6 | |
| | 筋損傷 | 4 | |
| | 骨折 | 3 | |
| 有害事象 | 耳痛 | 1 | 副反応 |
| | 鼻出血 | 1 | 副反応 |

| 年齢 | 診断名・症状 | FS前 | FS後 | 治療回数 |
|---|---|---|---|---|
| 70 | 左肩痛，腰痛 | 2 | 1 | 2 |
| 69 | 左テニス肘，右下肢打撲 | 2 | 1 | 2 |
| 17 | 左足関節踵腓靭帯損傷 | 3.5 | 1 | 2 |
| 68 | 右巻き肩，両肩挙上困難 | 2 | 1.5 | 2 |
| 17 | 胸骨骨髄炎 | 3 | 0 | 4 |
| 21 | 左大腿四頭筋損傷 | 1 | 0 | 1 |
| 25 | 左三角骨周囲炎，FHL 肉離れ | 3 | 2 | 6 |
| 47 | 左第 5 指基節骨骨折 | 5 | 2 | 6 |
| 28 | 右アキレス腱周囲炎 | 2.5 | 0.5 | 3 |
| 14 | 右中指 MP 骨折術後 | 4 | 0 | 5 |
| 73 | 左大腿四頭筋炎 | 3 | 2 | 3 |
| 14 | 左足関節前距腓靭帯損傷 | 4 | 1.5 | 6 |

・平均年齢：38.2 歳　・平均治療回数：3.6 回

・FS 平均：2.9 点→ 1.0 点へ改善

HBO 後の感想では，「痛みが軽減した」「腫れが引いた」「可動域が広がった」と具体的な効果を実感する声が多数聞かれた。また，早期回復への期待や看護師による安全管理が徹底されている安心感から，治療を継続できたという感想もあった。

**【考察】**

FS の改善や患者の具体的な感想から，HBO は疼痛や浮腫の軽減，可動域の拡大に対して短期的な効果を期待できることが示唆された。石田らは，筋肉靭帯損傷などスポーツ外傷において治癒期間の短縮，疼痛の軽減，機能回復の促進に貢献すると述べている。そして高橋らは，心理的サポートやリラックスできる環境の提供は看護師の役割だと述べている。看護介入による安全管理が，安心して治療に臨むことができ自由診療のスムーズな運営に繋がったと考える。また，費用対効果について事前にしっかりと理解を促す工夫も治療継続において重要であると感じた。経済的負担があるからこそ，効果と安全性を十分に納得してもらうことが不可欠である。

**【結論】**

疼痛や腫脹の軽減，可動域の改善に効果を認めたことからスポーツ外傷の早期回復に有効な選択肢の一つといえる。そして，看護師による徹底した安全管理と情報提供は，患者が安心して治療を受ける上で不可欠な要素である。しかし，学生やアマチュア層にとっては経済的負担が大きいため，持続的な運用には費用対効果のさらなる検討が必要である。